



横浜市立恩田小学校 学校だより 9月号

発行 令和元年8月26日



(グラジオラス)

「いいトス」をあげるために

校長 古屋 澄人

今年の関東地方の梅雨明けは昨年より30日遅く7月29日でした。そのため、昨年とは打って変わり梅雨明けが待ち遠しい7月となりました。7月26日に行われた青葉区水泳記録会では本校を会場として恩田小、桂小、奈良小、奈良の丘小の子どもたちが集まり、プールサイドを改修したばかりのピカピカのプールで開催しました。当日は、4年生～6年生までの特別水泳に参加した子どもたちが、多くの声援を受けながら自己記録更新に向けてカー杯泳ぐことができました。

さて、先日「ニュースウォッチ9」でもおなじみのNHKアナウンサー桑子真帆さんの講演会を聞く機会がありました。主に「ニュースウォッチ9」と「ブラタモリ」でのエピソードを交えながら魅力的な番組作りに向けて、伝え方で心掛けていることなどを中心とした内容でした。放送前には、VTRと原稿を確認しながら映像と内容が合うように何度も確認をとり、それでもVTRを見ながらオンエア中でも原稿を差し替えることもあるとのことでした。また、伝えたいことが10あってもその中で重点を3つにしぼって、あえて捨てる努力をするとのことでした。



特に、桑子アナウンサーが大切にしていることとして印象に残った話は、同番組でキャスターを務めている有馬アナウンサーが話しやすくするための工夫をバレーボールに例えて「いいトスをあげてシュート（スパイク）するのは有馬アナウンサー」と表現していたことでした。これからも相手から言葉を引き出すために「いいトス」をあげられるアナウンサーになりたいと締めくくっていました。

子どものやる気を引き出すためにも、大人が子どもたちに「いいトス」をあげることは大切であると感じています。そこで、子どもとの絆を深めるためにできるだけ使いたい三つの言葉を紹介します。 (「親と子どもの絆を深めるプログラム」から引用)

肯定的にくり返す：本人を受け入れて理解していることを示す。

「そう、〇〇なのね」

行動を言葉にする：本人に関心を向けていることを示す。

「Aちゃんは〇〇してるのね」

具体的にほめる：本人の行動の何がよいと思ったか具体的に伝える。

「〇〇ができてえらかってね」

9月からは運動会に向けた活動が本格的に始まります。「運動会の練習でつかれたー」なんて言葉が聞こえてくるかもしれません。そんなときは、「そう、たくさん練習しただね」と、子どもたちを受け入れていきたいと思っています。